

みなさんの「地域づくり」の活動を応援します

第24回

F U T U R E C R E A T I O N 2 0 2 3

中部の未来創造大賞

地域の魅力向上



ネットワークの活用



自然・歴史・文化・芸術等の魅力創出



防災



イノベーションの創出



SDGsの達成

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

様々な人の活躍・共生



クリエイティブな仕事



共助・参加型によるデザイン



第24回「中部の未来創造大賞」について

「中部の未来創造大賞」は、地域づくりのための活動を表彰し、新しい時代にふさわしい中部の発展とその啓発を促進しようとするものです。
第24回目にあたる今回は28件の応募をいただきました。
表彰委員会による審査の結果、大賞1件、優秀賞3件、特別賞2件が選考されました。
本冊子は、これらの選考された活動の概要を紹介するものです。
今後の地域づくりに広く役立てていただければ幸いです。

■受賞の対象

- ・ 受賞の対象は、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県における社会資本整備及び、その利用・保全に関する活動に顕著な貢献が認められるもの
- ・ 個人又は、団体(自治体、企業、NPO等)を対象



愛知県立一宮高等学校 生物部



特定非営利活動法人 SEA藻

GIFU

NAGANO

AICHI

SHIZUOKA

MIE



愛知県立愛知商業高等学校
ユネスコクラブ



NPO法人
浜松市東区の自然と文化を残そう会



須走まちづくり推進協議会



C O N T E N T S

第24回「中部の未来創造大賞」について 1

大賞

磯焼けからの藻場再生、維持へ
～持続可能な保全活動を目指して～
特定非営利活動法人 SEA藻
..... 3

優秀賞・中日新聞社賞

ミツバチと共に生きる地域作り
～継続した高校生のSDGs～
愛知県立愛知商業高等学校 ユネスコクラブ
..... 5

優秀賞

地域の自然と文化を残そう!
NPO法人 浜松市東区の自然と文化を残そう会
..... 7

優秀賞

起小ジャブジャブ池を生まれ変わらせよう大作戦
愛知県立一宮高等学校 生物部
..... 8

中部経済連合会賞

「世界に誇ろう!須走の景観と富士山」
巡拝の道づくりと景観向上活動
須走まちづくり推進協議会
..... 9

選考を終えて(表彰委員より) 10

磯焼けからの藻場再生、維持へ ～持続可能な保全活動を目指して～



特定非営利活動法人 SEA藻

<https://suzuki-diving.co.jp/seamo.html>



SEA藻は、愛知県及び三重県の海について、環境保全活動や、海への親しみを深め、海の素晴らしさを体感してもらう活動を行うために設立しました。

日本各地で藻場が衰退する”磯焼け”と呼ばれる海の砂漠化が進んでいます。三重県では南伊勢町以南よりウニ類(ガンガゼ)による磯焼けが見られてきました。

藻場は、二酸化炭素(CO₂)を吸収・固定するブルーカーボン生態系の一つとして気候変動対策のためにその回復、保全が必要とされています。藻場は魚介類の生態系として重要な機能も持ち、日本の水産資源を支える場となっているほか、水質浄化など、私たちに様々な恩恵(コベネフィット)を与えてくれます。

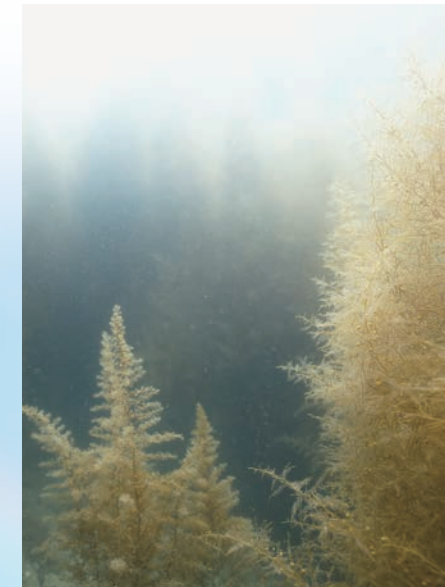
その様な藻場を再生・維持するためにSEA藻は、三重県熊野灘海域においてウニ類(ガンガゼ)駆除活動を継続して実施してきました。

SEA藻を活動主体とし、漁協、自治体、研究機関(大学、水産研究所)と協同で活動し、ボランティアダイバーの力も借りて活動してきました。活動しているすべての地域で藻場の再生が見られ、それに伴い、アオリイカの産卵、イセエビやアワビ等の生物量の増加が見られる地域もあります。

また、活動によって再生した藻場が吸収したCO₂量として、ジャパンプルーエコノミー技術研究組合(JBE)から認証・発行を受け、Jブルークレジットを創出しました。今後もJブルークレジットを活用した資金源の確保と安定化を図り、活動を持続的に行っていきたいと考えています。



磯焼けの様子



再生した藻場



アオリイカの卵



特定非営利活動法人SEA藻と活動に協力するボランティアダイバー、漁業者



ウニ類(ガンガゼ)を駆除するダイバー ステンレス棒でウニ類(ガンガゼ)を一つずつ駆除していきます。

ミツバチと共に生きる地域作り ～継続した高校生のSDGs～



愛知県立愛知商業高等学校 ユネスコクラブ

https://www.instagram.com/aisho_honeygirls/



愛知商業高校のユネスコクラブは、学校周辺にある名古屋近代化の歴史遺産が多く残るエリア「文化のみち」を中心とした地域活性化を目指し、2011年より「なごや文化のみちミツバチプロジェクト」を立ち上げ、校舎の屋上で都市型養蜂をスタートさせた。近くには日本庭園「徳川園」があり、それを蜜源として得られるハチミツは地域資源となり得ると期待し、「徳川はちみつ」と名付け商標登録を行った。

2012年には地元名古屋市が、東日本大震災により被害を受けた岩手県陸前高田市を支援していることを知り、力になりたいと考えた生徒達は、地元企業と共同で徳川はちみつと陸前高田市の特産品「米崎りんご」を使用したアイス「希望のはちみつりんご」を開発し、売上の一部を「陸前高田市小中学校復興基金」に寄付する仕組みを作り上げた。

その後も、徳川はちみつとガーナ産「フェアトレードカカオ」やフィリピン産「マスコバド糖」を使用したフェアトレードアイスを開発し、フェアトレードタウンなごやを盛り上げる販売活動を展開した。他にも、ミツバチの働きを子どもたちに身近に感じてもらうための絵本の発刊と読み聞かせを行い、名古屋市東区の「スモールアクションプロジェクト」においては、学校だけでなく地域の花壇と一緒に整備することでミツバチの蜜源を確保する活動を区役所に提案するなど、高校生が主体となり、ミツバチを核とした名古屋都心の取組から、生物多様性の保全と、地域経済の活性化、地域の意識の変革を促し、持続可能な街づくりの一助となっている。



ミツバチの定期点検をする生徒達



徳川はちみつを使用した生徒企画商品



校舎屋上でとれた「徳川はちみつ」



オリジナル商品販売の様子



郷土の偉人で大正時代の俳人、松島十湖が愛した十湖池。'90年代に涸れてしまったが、平成11年に着工、往時の豊かな自然を甦らせた「十湖池ビオトープ」を100年後まで存続させたい。そんな願いから平成22年に団体発足、平成27年にNPO化しました。

地元の方々の憩いの場となり、子供達の豊かな環境教育の場となることを通して地域に貢献することを、また、松島十湖の事蹟を宣揚し、地域が「俳句の里」として特色を出す一助となることも目標としています。

十湖池ビオトープでは70種の樹木を植え、生物多様性が高く、カブトムシが繁殖していて採集が楽しめます。静岡県自然保護課と提携し、環境省レッドリストIB、天竜川で野生絶滅したカワバタモロコの最後の個体群を野生復帰のために保護育成しています。

年6回、様々な自然体験イベントを実施し、スタッフを含め年間500名程が集まります。春にサツマイモの苗を植えていただき、秋に収穫して焼き芋にして食べる農業体験、駆除を兼ねたアメリカザリガニ釣り大会など、人気コンテンツを沢山創出しました。

会員による出前授業を小学校、幼稚園等で年間10回近く実施。大勢の高校生や社会人にボランティア体験の場を提供。さらに令和4年度から「個人植樹」と銘打って、お客さんにポットにどんぐりの芽生えを植えて頂き、ビオトープで育て、山に植樹する事業を始めました。これからも社会貢献を頑張ります！



アメリカザリガニ釣りは大人気。
寒い季節以外は、子供達が勢揃い釣りに来ています。



夏季イベント「十湖池アドベンチャー」にて、イベントでは100名近く集まります。



本活動、「起小ジャブジャブ池を生まれ変わらせよう大作戦」は、一宮市立起小学校の校長先生のお声がけから始まり本校生物部のほか様々な機関が協力しながら進められています。起小学校は木曽川に近い場所に位置している関係から環境学習が盛んに行われています。

活動が始まる前の池は、ギンブナとカダヤシというたった2種類の魚しか生息していませんでした。そこで、生物多様性の無いジャブジャブ池を、多様な生物が生息するワンドのような環境に児童・生徒が協力して改変し、児童が校内で木曽川の環境を学べるようにすることが本活動の目的です。活動内容は、どんな環境を作るかの話し合い、従来の池の拡張、国土交通省の許可のもとでの木曽川の砂や石の調達及び池への配置、ワンドの植物や魚の採取及び池への植え付けと放流です。どの活動も、児童・生徒・有識者で協力して行われ、児童は話し合いで主体的に意見を出し、生物に興味津々な様子でした。現在は、魚の放流を終え様々な生物が池の中で暮らしています。しかし、現在の状況でジャブジャブ池が完成したわけではなく、さらにたくさんの生物が生息できる環境に、そして児童により環境に興味を持ってもらえる工夫をするなど池を改変できるように活動が続ける必要があります。

今後も、児童・生徒との人との関わりを大切にしながら環境教育の推進のための地域づくりに貢献できるように活動に取り組んで参ります。(部員代表生徒より)



R5.9月 高校生が一宮高校中庭で捕まえたモツゴやエビを越小4年生と一緒に放流しました。



国土交通省の許可を得て、木曽川から採取した植物を高校生が植えました。



R4.12月 木曽川の環境に詳しい(株)建設環境研究所の方々の指導の下、越小学校の児童の皆さんと一緒に池にU字溝、土嚢を入れて、池底の基礎を作りました。

「世界に誇ろう!須走の景観と富士山」 巡拝の道づくりと景観向上活動



須走まちづくり推進協議会

<https://subashiri-fujisan.com>



平成25年の富士山の世界文化遺産の登録をきっかけに、須走地域の住民が一体となって、魅力ある住みよいまちの実現に向けて取り組むことを目的に、同年、自治会を中心に、事業者、ボランティア団体等により設立されました。

「富士山に抱かれ、恵みを大切に豊かなふれあいが人を輝かせるまち」を理想像に「す・ば・ら・し・き 須走」の実現に向けて取り組みをおこなっています。

設立当初から、国土交通省沼津河川国道事務所による国道138号須走地区景観形成ワークショップ会議に参加し、特に須走口登山道入口周辺の景観向上活動を実施してきました。活動を通じて、関係する道路管理者（国、県、町、NEXCO中日本）との協働体制を確立し、令和4年度からは道路協力団体として、景観向上活動を毎年春・秋に実施しています。

作業内容は、道路沿道の除草及び植え込みの除草手入れ、ガードレール等の景観配慮色への塗装を実施しています。協議会構成団体のほかボランティア100人～500人の参加者により、未就学児からシルバー世代まで幅広い年代による活動を継続しています。

平成28年からは、富士山世界文化遺産構成資産である「富士浅間神社」「須走口登山道」及び地域内の文化財や地域文化を活性化につなげる取り組み、「須走富士山巡拝の道づくり」事業を開始。地域を語れるローカルガイド「すばらし隊」の育成、パンフレット、ガイドマップの作成、インターネットによる富士山と須走地域の歴史や富士山信仰などについて情報発信を開始しました。

令和5年、富士山世界文化遺産登録10周年を迎えました。構成資産のあるまちとして、「世界に誇ろう!須走の景観と富士山」を合言葉に活動します。



登山道ガードレール塗装 富士山を背景に



巡拝の道事業 富士山小富士開山ウォーク御来光



国道138号及び登山道入口周辺修景事業 記念写真

委員長

三重大学名誉教授

渡邊 悌爾 わたなべ ていじ

やや応募数が少なかったのは残念だが、応募された団体はいずれも地域の活性化、環境活動、まちづくりなどに、年代、世代を超えて協力連携しながら、未来志向の活動に熱心に取り組まれ、敬意を表したい。更なるご発展を図り、地域の未来を切り開いて下さい。

副委員長

駿府静岡歴史楽会 事務局代表

竹内 礼子 たけうち れいこ

なかなか人の目に触れない分野での活動に感動しました。オンラインでは画面に出ている人しか見えませんが、実際は多くの協力者がいるだろう、現地を見ればその活動のたいへんさが伝わったのだと思います。

委員

名古屋大学大学院教授

小松 尚 こまつ ひさし

学校や生徒、児童が舞台や主役になった団体の瑞々しい活動に大変感銘を受けました。少子化が進むわが国ですが、次の世代と学び舎、そのネットワークがソーシャルなインフラになっていくことを期待しています。

委員

名古屋工業大学教授

増田 理子 ますだ みちこ

今回、高校生主体でありながら長期に活動している団体からの応募が多く、大変驚かされました。また、生物多様性保全の取り組みについても多くの活動が寄せられ、今後の中部の未来に大きな期待を持つことができました。

選考を終えて (表彰委員より)

委員

中日新聞社事業局次長

鵜飼 哲也 うかい てつや

地域の大切な財産を守り、育てたいという思いの強い活動が多くあり、特に高校生から小学生らにつながる仕組みがしっかりできていてこの中部エリアの未来に期待が持てました。今後も「若いチカラ」が強固につながり、新鮮な目で発展性のある活動が生まれることを期待します。

委員

(一社)中部経済連合会常務理事

根本 恵司 ねもと けいじ

地域の「人と人の繋がり強化」や「環境の改善・保全」に向け、様々なアイデアを出し、各団体が熱心に取り組まれていることが伝わる素晴らしい活動報告でした。今後も活動を継続・発展させ、更なる地域貢献に尽力されることを期待しています。

委員

国土交通省中部地方整備局 企画部長

八尾 光洋 やお みつひろ

高校生らが積極的に企画・活動に参加する取り組み、地域に根差した持続可能で新しい取り組みなど、地域の未来に期待を持てるものも多く見受けられました。地域の未来を担う若い力により、地域の活力を向上させる取り組みとなることを期待します。



中部の未来創造大賞推進協議会

国土交通省中部地方整備局

長野県

岐阜県

静岡県

愛知県

三重県

静岡市

浜松市

名古屋市

中日本高速道路株式会社 名古屋支社

名古屋高速道路公社

独立行政法人
水資源機構 中部支社

地方共同法人
日本下水道事業団 東海総合事務所

独立行政法人
都市再生機構 中部支社

公益社団法人
土木学会 中部支部

一般社団法人
中部地域づくり協会

一般社団法人
日本建設業連合会 中部支部

一般社団法人
建設コンサルタンツ協会 中部支部

一般社団法人
長野県建設業協会

一般社団法人
岐阜県建設業協会

一般社団法人
静岡県建設業協会

一般社団法人
愛知県建設業協会

一般社団法人
三重県建設業協会

株式会社中日新聞社

後援／一般社団法人
中部経済連合会

中部の未来創造大賞では次のような活動を表彰しています。

1. 住民、NPO、企業、学校、行政等が工夫して取り組んでいる地域づくりの活動で、以下に該当するもの

- 人を惹き付け、選ばれる地域づくりをするもの
- 人が豊かに過ごせる地域を共助・参加型でデザインするもの
- 生活を楽しくする自然、歴史、文化、芸術等の魅力を感じることができる地域づくりをするもの
- 子供が生まれ、女性、若者、高齢者、外国人等様々な人材が活躍・共生できる地域づくりをするもの
- クリエイティブな仕事、イノベーションが生まれる地域づくりをするもの
- SDGsの達成など世界的課題にチャレンジする地域づくりをするもの
- ネットワークの活用で、一体となって成長し、隅々まで豊かさを供給するもの

2. 災害時の人命救助、復旧活動や防災に関するもの

第25回「中部の未来創造大賞」の募集予定

■募集期間(予定)

令和6年6月上旬～8月末（詳細は、募集開始時にホームページに掲載します。）

■応募条件

- 長野、岐阜、静岡、愛知、三重の5県内における活動を対象とします。
- 自らが参加している活動であり、特許・著作権またはプライバシー等の権利を侵害しないものに限ります。
- 資格、年齢等は問いません。
- 再応募ができます。（但し、これまでの「中部の未来創造大賞」にて大賞を受賞された活動は除きます）

■選考について(予定)

学識経験者等からなる表彰委員会により選考します。必要に応じて現地調査、面談等を行います。

■賞(予定)

- 大賞・・・1件 [賞状、盾、賞金10万円]
- 優秀賞・・・3件程度 [賞状、賞金5万円]
- 特別賞・・・中部経済連合会賞、中日新聞社賞

6月上旬
募集開始



8月末
募集締切



9月～10月
事前審査



10月～12月
現地調査



2月
表彰式

●過去の大賞受賞活動

第17回

「地域のデザイン」を、住民自治で!

美奈地域づくり会議



第20回

藤前干潟クリーン大作戦

藤前干潟クリーン大作戦実行委員会



第23回

世代をつなぐ鈴鹿川流域の取り組み

魚と子どものネットワーク



FUTURE CREATION 2023

中部の未来創造大賞

主催／中部の未来創造大賞推進協議会

中部の未来創造大賞

で

検索

中部の未来創造大賞推進協議会事務局
一般社団法人 中部地域づくり協会 業務管理部

TEL (052) 962-9455

URL <https://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/mirai/index.htm>

